

諸達其、他此、典範ニ抵觸スル者
ハ總テ之ヲ廢ス

第六十條 皇族、財産歳費及諸規
則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第六十條 將來此ノ典範、條項ヲ
東シ又ハ増補スヘキ、必要アルニ當テ
ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ
テ之ヲ決定スヘシ

大日本帝國憲法

第一章 天皇

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天
皇之ヲ統治ス

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ
依リ皇子孫之ヲ繼承ス

第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權
ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之
ヲ施行ス

第五條 天皇ハ帝國議會ノ翼賛ヲ以テ立法權ヲ施行ス

第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス

第八條 天皇ハ國家ノ危難又ハ國民ノ災厄ヲ避クル為^{緊要}ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代

ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ^{政府}將來ニ向テ法律ヲ^其効力ヲ失フヘシ

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル為ニ又ハ國家ノ安寧^{秩序}維持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル為ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各々其ノ條項ニ依ル

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 天皇ハ爵位勲章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十七條 摂政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

摂政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ施行ス

第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラルヘ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所

ニ從ヒ納税、義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ
於テ居住及移轉、自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非
スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受ク
ルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル
裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪
ハルコトナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタ

ル場合ヲ除ク外其ノ承諾ナクシテ
住所ニ侵入セラレ及搜索セラルコ
トナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタ
ル場合ヲ除ク外信書、秘密ヲ侵
サルコトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ
侵サルルコトナシ
公益、為必要ナル處分ハ法律ノ
定ムル所ニ依ル

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ

妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサ
ル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍
内ニ於テ言論^論著作印行集會及結
社ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ
守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請
願ヲ為スコトヲ得

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰

時又ハ^{國家}事變ノ場合ニ於テ天皇大權
ノ施行ヲ妨クルコトナシ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ
陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ抵觸セ
サルモノニ限リ軍人ニ準行ス

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院議院ノ
兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ム
ル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレ
タル議員ヲ以テ組織ス

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル
所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組
織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員

タルコトヲ得ス

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ承
諾ヲ經ルヲ要ス

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法
律案ヲ議決シ及各々法律案ヲ提
出スルコトヲ得

第三十九條 兩議院ノ一二於テ否決シ
タル法律案ハ同會期中ニ於テ再
ヒ提出スルコトヲ得ス

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ

事件ニ付各々其ノ意見ヲ^{政府ニ}建議スル
コトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノ
ハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ
得ス

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス
第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會
期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ
以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ
於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依
ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會
期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行
フハシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴
族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレ
タルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ
選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以

内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條 兩議院ハ各々其ノ總議員三
分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ
開キ議決ヲ為スコトヲ得ス

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ
以テ決ス可否同數ナルトキハ議長
ノ決スル所ニ依ル

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但
シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ
依リ秘密會ト為スコトヲ得

第四十九條 兩議院
各々天皇ニ上奏
スルコトヲ得

第四十九條

兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル

請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十條

兩議院ハ必要トスル場合

ニ於テ政府ニ對シ文書ヲ以テ質問ヲ
為スコトヲ得

第五十一條

兩議院ハ此、憲法及議院

法ニ掲クルモノ、外内部、整理ニ必
要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條

兩議院ノ議員ハ議院ニ於

テ發言シタル意見及表決ニ付院外

ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自

ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其

ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ

一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條

兩議院ノ議員ハ現行犯罪又

ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中

其ノ院ノ承諾ナクシテ逮捕セラルコ

トナシ

第五十四條

國務大臣次官及政府委員ハ

何時タリトモ各議院ニ出席シ及發

言スルコトヲ得

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ
其ノ責ニ任ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ関ル詔勅
ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定
ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要
ノ國務ヲ審議ス

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依^{裁判所}リ之ヲ施行ス

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ル、外其ノ職ヲ免セラル、コトナシ
懲戒、條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 裁判、對審判決ハ之ヲ公開

ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ
虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所
ノ決議ヲ以テ對審、公開ヲ停ムルコ
トヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ属スヘ
キモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ
權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニ
シテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁
判所ノ裁判ニ属スヘキモノハ司法裁判

所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

第六章 會計

第六十二條 新ニ租税ヲ課シ及税率ヲ
変更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
但シ報償ニ属スル行政上ノ手数料及
其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス
國債ヲ起スハ帝國議會ノ承諾ヲ
經ヘシ

第六十三條 現行ノ租税ハ更ニ法律ヲ以
テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵
收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫
算ヲ以テ帝國議會ノ承諾ヲ經ヘ
シ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外
ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國
議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出シ
其ノ議決ヲ經タル後貴族院ニ提出ス
ハシ

貴族院ハ豫算ニ付全体ヲ議決スルニ

止マリ修正スルコトヲ得ス

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ
依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來
増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議
會ノ承諾ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既
定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ
法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ
帝國議會ニ於テ政府ノ承諾ヲ經
ズルヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ

得ス

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ承諾ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ為ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル為ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持ス 國家ノ危難ヲ避ケル為ニ緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情

形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ為スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ニ依リ之ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歳出歳入ノ決算ハ
會計検査院之ヲ検査確定シ政府
ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議
會ニ提出スヘシ
會計検査院ノ組織及職權ハ法律
ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 補則

第七十三條 将来此ノ憲法ノ條項ヲ改
正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議
案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ
此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各々其ノ總
員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議
事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分
ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ律
等改正^スキ^ス決議^スコトヲ得ス
第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議

會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ摂政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用井タルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ効力ヲ有ス

歳出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契

約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

議院法

第一章 帝國議會、召集成立
及開會

第一條 帝國議會召集、勅諭ハ集會
ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ
發布スヘシ

第二條 議員ハ召集、勅諭ニ指定シタ
ル期日ニ於テ各議院、會堂ニ集會
スヘシ

第三條 衆議院、議長副議長ハ其ノ院